

次なる戦いに向かって進め その5

きっと野球部の選手たちは、自分たちが21世紀枠で甲子園に出てよいか戸惑っている部分もあるのではないかと推察する。先輩方は、みな実力でつかみ取った甲子園であるのに、21世紀枠で行けたら行きたいが、これまで涙を吞んできた先輩たちもたくさんいるし、どうにかしてこの壁を乗り越えていくことこそが磐城高校の野球部にできることであると思ってきたので、先輩の皆さんには申し訳ないという部分もあるに違いないと考える。

その思う気持ちは間違いではないと考える。胸を張って勝ちましたと言って、甲子園に行くことは大切なことだろう。

しかし、その姿を評価していただいて甲子園に行くことができるのなら、やはり胸を張って出場し、強者たちと十二分に伍した戦いを展開して勝利する野球をするべきであろうと思うのだ。

新しき磐城高校の始まりになるかもしれない大きなチャンスは、だれにでもやってくるのではない。このようなチャンスを夢見て、その夢を追い続けてきたものだけが手に入れることができるチャンスではなかろうか。

受けない大学には入らない。追わない夢は成就しない。努力しない夢ははじめから幻である。

努力しても叶わない夢はたくさんあるだろう。でも、努力しないと夢はかなわないのだ。夢はいつでも自分で見れる。実現するまではとてつもない道筋だ。

しかし、追い続けるものにしか訪れないのが、私たちが希求してやまない夢だ。

本日の15：00には、結果が伝えられるはずだ。どうなっても、私たちの姿勢に変わりはないだろう。つなげてつなげて磐城高校として追い続けることは間違いないところなのだ。

どの部であっても、どの夢であっても、全生徒たちがたどりつこうとしていくその前向きな姿勢こそが、磐城高校そのものである。そのことは、何年たっても、何十年たっても、何百年たっても、我々の中にある同じ姿勢である。

3年生は、今、自分の夢を追って、3者面談を行いつつ、自分の夢を完遂させるべく闘っている。一人きりの戦いだが、磐城高校生としての矜持を持った戦いである。つまり、磐城高校生の戦いであり、みんなの戦いである。

これから、全国に向かう部活動も、やはり磐城高校として戦っていく。

だから、野球部だけでなく、皆の喜びなのだ。同窓生3万6千人の喜びを今日迎えることができたら、皆で喜ぼう、次なるみんなの戦いに向けて。心から祈ろう甲子園の現実を。